HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学医学部図書館における研究者向け講習会 : 30分講習会
Author(s)	菊地, 隆憲; 川村, 路代
Citation	医学図書館, 65(2), 96-99
Issue Date	2018-06-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/72042
Type	article
File Information	download-68.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

事例報告

北海道大学医学部図書館における研究者向け講習会：30分講習会

菊地　隆憲[1)]，川村　路代[2)]

北海道大学　医学研究院／医学院／医学部図書館[1)]，
北海道大学　保健科学研究院図書室（2017年3月まで北海道大学　医学研究院／医学院／医学部図書館に所属）[2)]

Ⅰ．はじめに

北海道大学医学部図書館（以下，当館）では，2016年11月から研究者（院生を含む，以下同様）向けの講習会として「30分講習会」を開始した。これまでにもいくつか先行事例[1)]があるが，当館で開催したこの講習会は，利用者が日時とプログラム内容を選択でき，事前の予約なし，研究内容に合わせた検索語の使用，30分という短時間で完結するという特徴がある。今回，この講習会が開催に至るまでの経緯，内容およびその成果について報告する。

Ⅱ．開催に至る経緯

1．北海道大学附属図書館における講習会

北海道大学附属図書館は本館，北図書館，また当館を含む各部局図書室を合わせた全18の図書館・室で構成されている。まずは，北海道大学附属図書館が全学を対象として開催する講習会について説明する。附属図書館が開催する講習会は，学部学生・院生向けの基礎的な内容と，分野毎の専門性を含む研究者向けの大きく2種類に分類される。また，学部学生・院生向けはさらに2種類に分類され，主に1年次の学部学生を対象に図書館の基本的な利用方法や蔵書検索・文献検索の方法を中心に指導する「図書館情報入門」と，2年次以上の学部学生・院生を対象に文献の探し方や文献管理ソフトの使い方の説明をする「オーダーメイド講習会」があり，どちらも教員の依頼を受けて開催する。また，研究者を対象として，各分野の専門的な内容を含むデータベース講習会を，事業者等から講師を招き不定期に開催している。

これらの講習会は，いずれも授業時間や特定の日時に開催されるため，時間的制約により希望していても受講できない研究者が，特に医学系においては多く存在しているという問題があった。また集合形式のため，万人向けの説明になり各研究分野に沿った内容になっていない，また受講者が講習中に疑問をもったとしても講師がそれを見逃してしまう等の問題も確認しており，その解決策を模索していた。

2．秘書さんのための文献探索出張講習会

一方，当館独自の取り組みとして，教員に代わり文献入手を担う秘書向けに，2013年から「秘書さんのための文献探索出張講習会」[2)]を開催してきた。研究室（もしくは当館事務室）にて，文献入手方法をマンツーマンで講義するものである。これは，研究室秘書が研究者から入手を指示された文献のうち，電子ジャーナルや当館書庫で入手可能なものを，確認することなくILLの申込をする傾向が多く，この対応が業務の負担となっていたという背景から生まれたものである。

この出張講習会の特徴として，申込の都度30分のレクチャーを随時開催する方式を取っていることがあげられる。これは，集合形式の講習会では時間の都合がつけられず参加できない場合があることを想定してのことである。また，申込者の医局や当館事務室等で講習を行なうため会場確保が不要，レファレンス感覚で対応できるなど，大がかりな講習会を開催するのに比べて職員の負担が少ない利点があった。さらに，基本的にマンツーマンでの講習になるため，集合形式の講習会では質問しにくいような細かい疑問にも答えやすいという側面もあった。この出張講習会開催後は，学内で入手可能な文献のILL依頼が減少し，リンクリゾルバを経由したことによる文献情報が正確なILL依頼が増加した等，一定の効果を確認することができた。

3．研究者向け30分講習会開催の目的

「秘書さんのための文献探索出張講習会」を通して，時間的制約がなく，短時間，かつ気軽に受講できる講習

[1)] Takanori KIKUCHI：〒060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目．takanori_k@lib.hokudai.ac.jp
[2)] Michiyo KAWAMURA：ヘルスサイエンス情報専門員（基礎）
（2018年1月19日　受理）

Presented by Medical*Online

会へのニーズがあることが確認できた。このことは，研究者が時間的制約から集合形式の講習会に参加出来ない場合の代替措置として有効であると思われた。またマンツーマンで講習することで研究テーマに沿ったより実践的な内容にすることが可能と考えた。これを実現するため，企画したものが今回紹介する「30分講習会」である。

Ⅲ．講習会の内容

1．講習内容

「30分講習会」のメニューは現在のところ6種類である。秘書向け講習会で提供していた「文献探索編」「インパクトファクター編」の2つに加え，「医中誌Web編」「PubMed編」「Google Scholar編」「EndNote Basic編」の4つの講習会を研究者向けに新設した。

この講習会の最大の特徴は，受講者の研究テーマに沿ったキーワードを用いて一緒に検索を行うことにより，より実践的な内容を目指した点である。

「医中誌Web編」と「PubMed編」では，PICO（臨床上の疑問を構造化する手法）を使って問題を定式化[3]し，MeSHやキーワードを使って網羅的に文献を探す方法に焦点をあてている。資料や検索課題を事前に用意してはいるが，研究者の知識やニーズに応じて柔軟に説明内容をアレンジしている。そのため，場合によっては資料を使わないことさえある。

また，「Google Scholar編」，「EndNote Basic編」は基本的な使い方の説明が主ではあるが，受講者からの質問に答える形で文献レコードのエクスポートや重複レコード検索の方法，EndNoteデスクトップ版などの当初予定していた以外の説明を入れることも多い。

2．開催日時・場所・形式

開催日時は特に曜日や時間帯を定めず，希望に応じて随時開催している。開催場所は原則として図書館事務室としているが，希望に応じて授業や研究室，ゼミへ出張することもある。マンツーマンや少人数グループで講習と演習を行なうのが基本的なスタイルである。

申込方法は，カウンターで受講を申し出るだけである。その際，担当者が対応可能であれば即時受講出来る。これは学びたいという気持ちが芽生えたとしても受講までに時間を要する，また手続きが必要であることを知った際に意欲が萎えてしまうこともあるのではないかと考えてのことである。

このほか，当館ウェブサイトに希望日時やメニューの事前予約が可能なフォームも用意し，カウンター以外でも申込を受けられる体制をとっている。

また，名称のとおり，所要時間は30分で収まるよう設定し（もし「医中誌Web編」「PubMed編」の2つの講習会に参加した場合は1時間が目安となる），時間的制約を少なくした。

これらは，いずれも受講のハードルを下げることを狙って設定したものである。

北海道大学附属図書館で行われているデータベース講習会との比較を**表1**にまとめた。

表1．北大で行われている講習会の比較

	主なターゲット	予約	主な内容	目安時間	受講単位
図書館情報入門	学部学生（1年次）	要	図書館の利用方法 蔵書検索	90分	多人数 （講義の1コマ）
オーダーメイド講習会	学部学生（2年次以上） 院生	要	文献の探し方 文献管理ソフトの使い方	90分	多人数 （講義の1コマ）
事業者による講習会	研究者	要	データベースの説明	90分	多人数
秘書さんのための 文献探索出張講習会	医学部の秘書	不要	論文の入手方法	30分	1人～
30分講習会	医学部の研究者	不要	研究テーマに沿った 論文の検索方法	30分	1人～

Presented by Medical*Online

Ⅳ．開催

1．広報

開催にあたりポスター・チラシを作成した（図1）。チラシは当館の配布物コーナーやWebサイトでの公開，各研究室の郵便ボックスへのポスティングを行っている。また研究室を訪問した際や，カウンターで利用者からデータベースや文献管理ツールについて質問を受けた際にもチラシを渡している。特に後者は効果が高く，その場での受講に繋がるケースも多い。

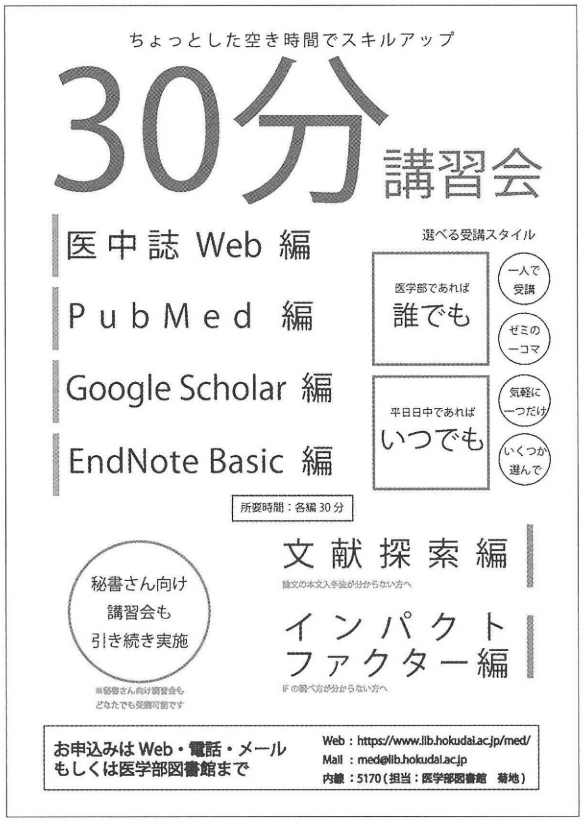

図1．広報で使用したチラシ

2．実績

受講の形態としては想定していたとおり1名での受講が最も多かったが，勉強会という形で18名といった大人数での受講希望もあった。

内訳について以下記載する。

1）受講人数（延べ人数）

平成28年（11月～3月）　9人　（8回開催）

平成29年（4月～12月）　36人　（18回開催）

2）申込方法（開催回数）

予約なしで受講　18回

申し込みフォームから予約して受講　10回

3）受講メニュー内訳

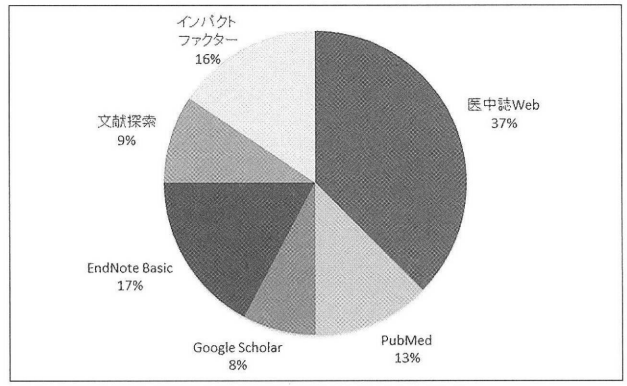

図2．受講メニュー内訳

3．受講者からの反応

受講後に，満足度や理解度，この講習会への感想をアンケートで尋ねたところ，「一対一なので疑問がその場で訊けて良かった」「色々な小ワザを習得できた」など好意的な感想が寄せられた。

Ⅴ．評価

1．受講状況より

受講者の8割近くが新設された研究者向けの講習会を受講しており，いつでも受講可能な講習会に対するニーズが高いことが確認できた。

また，6割以上の人が予約なしで受講していることから，思い立った時にすぐ講習会を受けたい要望があることもうかがえる。

2．アンケートより

満足度では全員が「満足」，理解度では90％以上が「よく理解できた」（他は「概ね理解できた」）と回答しており，満足度・理解度は高い。

参加者が質問をするのに躊躇したり，一人がつまずいていてもフォロー仕切れなかったりする集合形式での講習会と異なり，マンツーマンでのリラックスした雰囲気で疑問点を質問しやすいことが上記のような評価に繋がったと考えている。

日を改めて別メニューの講習を受けに来る常連のような方もおり，満足度が高かったことを裏づけている。

3．講師の感想

予約なしの受講者に即時対応することで講習会の準備時間がなくなることへの不安も当初はあったが，月に何

Presented by Medical*Online

度も同じ内容の講習会を行う機会があり，繰り返す間に説明すべき内容を自然と覚えていられたためその心配は杞憂に終わった。

「PubMedの検索結果表示の並び替えでの『Most Recent』と『Publication Date』の違いは何か」や「PubMedとPubMed Centralで検索結果の件数が違うのは何故か」など，想定外の質問を受けることも多い。さらに講習会後にも研究者から各データベースを使用している上での困りごとについて相談を受け，事例が蓄積されていく。通常の講習会に比べて職員の学びが大きいということも特筆したい。

Ⅵ. おわりに

「30分講習会」は，受講者の研究テーマに沿ったキーワードを用いて一緒に検索を行った点，時間的制約なく受講できる点で，医学系の研究者からの需要にうまく応えていることが確認できた。この点はこれまでの北海道大学附属図書館が全学を対象として開催する講習会では実現できていなかったことである。

今後は，「Web of Science」や「CINAHL」，「Mendeley」など研究者からよく質問を受けるデータベースや文献管理ツールについても講習会メニューとして追加するかを検討中である。また，カリキュラム等についても，全学を対象とする講習会と相互に協力するなど連携していきたい。

参考文献

1）寺升夕希．参加しやすい講習会を目指して“ぷち講習会”での実践．医学図書館．2010;57(2):156-9.
2）川村路代．S + Hisho！北海道大学医学部図書館における「がんばらない」秘書向け講習会の取り組み．2015. [internet]. http://hdl.handle.net/2115/59759 [accessed 2017-10-30]
3）西垣昌和．【スマート看護研究実践ガイド】(Chapter Ⅱ) 看護研究実践ガイド　テーマの設定　臨床疑問から研究疑問への構造化　PICO (PECO) を活用しよう．EB NURSING. 2011;11(増刊2):686-92.

Report on a Thirty-minute Library Session for Researchers at Hokkaido University Library, School of Medicine

Takanori KIKUCHI, Michiyo KAWAMURA

Hokkaido University Medical Library. Kita 15, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, Japan

Abstract: Hokkaido University Library, School of Medicine, has held training sessions named “Thirty-minute Sessions” for researchers since November 2016. These sessions are conducted in a manner such that researchers can participate without reservation and the contents of the explanations provided change depending on the researchers and their research themes. This paper describes the process and outcomes of this program.

Keywords: Education; Information Literacy; Libraries, Medical; Library Services
(*Igaku Toshokan*. 2018;65(2):96-99)

Presented by Medical*Online